

近年一般工業界・医療においても、コンピューターテクノロジーの導入はめざましく、ここ数年においてはA I 技術の導入が現実化となり、さらに汎用されるものと感じさせられる今日この頃である。

歯科領域においても、今日 CAD/CAM 技術の応用は、補綴・矯正分野ではその製作工程においては当たり前時代である。即ち製作の第 1 段階としての印象法であるが、いまやオーラルスキャナーによる印象が普及の兆しをみせている。おもに矯正、補綴において自費診療の分野のみであるが、今後純国産のオーラルスキャナーがマーケットに参入したならばアルジネート寒天の連合印象およびシリコン印象など従来の印象法にとってかわる事はここ 5 年の間に間違いのないことと思う。

そこで今回従来の印象法と比較し精度はどうなのか？、オーラルスキャナーの種類、術者などに差があるのか？、など文献レビューや私の研究も含め論じてみたい。